

元ノルウェー首相、前WTO事務局長 グロ・ブルントラント著  
「世界で仕事をするということ」を読む

- 女性の無限の可能性を考える -

- ・保健を「国内」「国外」と分けることは、もはや意味のないことである。
- ・私たちがグローバル化の恩恵を得ようとするなら、この恩恵を途上国で貧困に苦しむ人たちと分かち合わなければならない。  
そうでなければ、グローバル化による危険や脆(もろ)さを制することはできない。そして、こうした認識に立てば、保健への投資の重要性が理解されるだろう。  
病気の重荷にあえぎ貧困に窮する人たちへの支援なくして、世界の安全と繁栄は確保できないのである。

P.249

グロ・ブルントラント著、竹田セハネセン裕子訳「世界で仕事をするということ」

PHP研究所 2004年11月24日刊

- 2006年9月24日記 -